

貸 方

資産調達の内容

(負債の部) これから負担する分

1. 固定負債	284億 1 千万円
(1) 地方債	238億円
(2) 債務負担行為	0 円
物件の購入等	0 円
債務保証又は損失補填	0 円
(3) 退職給与引当金	46億 1 千万円
2. 流動負債	23億円
(1) 翌年度償還予定額	23億円
(2) 翌年度繰上充用金	0 円
負債合計	307億 1 千万円

平成13年度末の市債残高(翌年度償還分を除く)

平成13年度末に全職員が退職した場合の手当の試算額

翌年度の償還元金

(正味資産の部) これまでの世代で負担した分

1. 国庫支出金	101億 8 千万円
2. 都道府県支出金	53億 3 千万円
3. 一般財源等	323億 5 千万円
正味資産合計	478億 6 千万円

有形固定資産を取得するために使った国や県からのお金

資産を取得するために使った市税など

負債・正味資産合計 785億 7 千万円



バランスシートで分かる

市の資産と負債

市の財政状況を市民の皆さんにより分かりやすく知っていただくために、平成13年度の決算に基づいて「大館市のバランスシート」を作成しました。バランスシート(貸借対照表)は、学校、福祉施設、道路などの資産とそのために必要となったお金を対比して市全体の資産や負債を示したものです。これにより、単年度の歳入歳出決算(お金の使い方)では分からなかった昭和44年度以降のすべての資産や負債などの蓄積状況を把握できます。

バランスシートから分かること

土木費と教育費が全体の70%

有形固定資産を分野別に見ると、道路、市営住宅、公園など土木費が29.5億円(41%)と最も多く、次いで教育費の20.9億3千万円(29%)となっています。この2つの費目は、現在、有浦東台線道路改良事業、高館・樹海公園新設事業、城西小学校改築事業に着手していることから、今後数年間はさらに伸びていくことが予想されます。

なお、この割合が低い費目については、その分野の行政サービスが少ないということではありません。例えば、毎年度の予算で高い割合を占める民生費の多くは、扶助費などのようにその年度で消費されてしまう性格の行政サービスです。そのため、社会資本の形成と直接結びつかない性質の経費は、バランスシートには表れません。

市民一人当たりの資産は11.8万円

平成12年度末に11.6万8千円であった市民一人当たりの資産額は11.8万円と増加しています。これは主に土木費の有形固定資産の増によるものです。これまでの世代の負担率は66.2%

有形固定資産の形成に当てられた正味資産の比率(平成13年度末で66.2%)を見ることで、社会資本整備のためこれまでの世代でどれくらい負担してきたかが分かります。この数値が高いほど将来の世代への負担が少いと言えます。

一方、市債残高から現金・預金額を差し引いた額を人口一人当たりで表すと、平成12年度末で36万9千円、13年度末では37万4千円で、市民一人当たりの負担は増加傾向にあります。

なお、市債残高には普通交付税として後年度に国から市に交付される分も含まれていますが、今後の少子高齢化の進行や昨今の交付税制度改革の動向を考慮すると、財政運営には十分留意しなければならぬ指標の一つです。